

保健師養成に向け「専攻科」開設へ

理事会で正式決定 大卒者対象に25年度から

2022年度第3回理事会が11月30日（水）に開かれ、2025年度に、4年制大学の卒業生を対象とした保健師養成のための「専攻科」を設けることを正式決定しました。

昨今、少子高齢化や児童虐待、新型コロナウイルス感染症など、社会における問題の多様化、それに伴う患者像の複雑化が進み、これらに対応できる看護師、保健師の養成がより一層求められています。このため、保健師助産師看護師学校養成所指定規則が一部改正され、看護師教育、保健師教育に求められる単位数が増加しました。

こうした社会の要請に応える質の高い看護人材の養成及び保健師の輩出を目指し、本学看護学科は2022年度入学生より看護学科での看護師・保健師の統合カリキュラムを廃止し、

看護師課程のみの教育体制となりました。同時に2025年度に新たな保健師課程を設立することとし、今回の理事会で大卒者を対象とした1年制の「専攻科」（定員20名）とすることが決定しました。看護師養成課程と保健師養成課程を分離することで、カリキュラムの過密化が避けられ、看護師養成、保健師養成共に高度な専門指導が可能になります

専攻科設置について、渡辺雄一学部長は「社会が求めるより質の高い看護師、保健師の養成のために先駆的に取り組みます。現時点で保健師養成の大学専攻科は全国で数校、九州では初めての開設となります。本学のブランド力向上に貢献できる専攻科を作る所存ですので、どうか応援をよろしくお願いいたします」とコメントしました。（NL編集班）



クリスマスイルミネーション点灯式

トーンチャイムの音色優しく

学友会主催のクリスマスイルミネーション点灯式が5日（月）、3年ぶりにキャンパススクエアで行われました。江口羽菜さん（リハビリテーション学科言語聴覚学専攻2年）の合図に合わせ、学友会員が11月21日から準備してきたイルミネーションが点灯。点灯後、学友会有志による「赤鼻のトナカイ」がトーンチャイムで演奏され、皆が音色に耳を澄ませています。クリスマスイルミネーションは25日（日）までです。（安部悠介）

竹屋学長、再任（3期目）決まる

竹屋元裕学長の再任（3期目）が2022年度第3回理事会で決まりました。新たな任期は2023年4月1日～2025年3月31日です。

3期目の続投にあたり、竹屋学長は「現在策定中の中期目標・計画にも記載していますが、『教育』については、学生確保を最優先に掲げ、様々な取り組みを実施したいと思います。また『研究』については、今年、導入された次世代シーケンサーや電子顕微鏡を大いに活用して、研究活動をさらに活性化させ、本学の研究力のアップに努めたいと考えています」と抱負を述べました。

（安部悠介）

↑
クリスマスイルミネーションの点灯式でトーンチャイムを演奏する学生たち

医学検査学科の南部雅美学科長（教授）が、国際細胞学会（IAC）の細胞検査士特別功労賞を受賞しました。11月に米国・ボルチモアで開催された同学会の会場で授賞式に臨んだ南部教授に寄稿してもらいました。

認められた若手検査士育成の努力

医学検査学科 南部 雅美教授

この度、私はThe International Academy of Cytology (IAC) の The International Cytotechnologist of the Year Award 2020 の受賞対象者に選ばれ、アメリカのメリーランド州ボルチモアで開催された第21回国際細胞学会にて授賞致しました。

コロナ禍であること、またボルチモアの犯罪率は全米で3位と言われており治安に不安があることから、現地での授賞に躊躇しましたが、今回の賞は国際的に細胞学の教育、研究、奉仕に生涯を捧げた細胞検査士から毎年1名に贈られる栄誉ある賞であることから、渡米を決心しました。

授賞式では、各受賞者の紹介スライドショウが流され、その後にIAC会長より表彰状およびメダルの授与が行われました。今回の私の受賞は、IACにおける学術業績と日本・台湾・韓国（日台韓）細胞検査士合同セミナーを立ち上げ、国際学会発表を志す若手細胞検査士の育成に努めたことが評価されたと思います。

この賞の受賞者は2019年が韓国のNo Won

Park氏、2020年が私、そして2021年が台湾のJen-Sheng Ko氏であり、日台韓細胞検査士合同セミナーを支えた3国の代表者が受賞できたことは、私たちの国境を越えた国際的学術活動がIACに評価された結果であると解釈し感慨深い思いです。



会長招宴に出席した南部夫妻（左）



容易な破傷風診断試薬の開発めざして

生物毒素・抗毒素共同研究講座

坂本 智代美 特命助教



実験をする坂本助教（右）

皆さんは、破傷風の診断がどのようにされているかご存じでしょうか？ 実は、患者の創部からの破傷風菌の分離同定は難しく、確定診断に結び付く検査法はありません。医師が四肢の強直性痙攣、開口障害などの臨床症状だけで診断しているというのが現状です。

そこで、患者検体から破傷風毒素を検出できれば確定診断に結び付くと考え、KMBの協力のもと破傷風抗原測定ELISAを構築し、さらにイムノクロマトキットを試作しました。現在は、破傷風の抗体保有（0.01IU/mL以上）状況の確認が可能となる破傷風抗体測定ELISAを構築し、イムノクロマトへ展開中です。

これらの研究について、第69回日本臨床検査医学会学術集会（11月18日・栃木県宇都宮市）と第26回ワクチン学会学術集会（11月27日・香川県高松市）で口頭発表しました。破傷風患者の診療経験のある先生とお会いできるなど有意義な出会いがありました。臨床現場で利活用可能な迅速で容易な実験室診断試薬の開発を進めていきたいと考えています。

恒例の「チャレンジ熊本大！」

高校生に受験対策手ほどき

チャレンジ熊本大！「一般選抜対策講座」が4日（日）、本学で実施されました。この企画は一般選抜を希望する生徒を対象に、熊本の大手予備校「壺溪塾」の講師陣が本学の英語・国語・数学・理科（物理・化学・生物）・小論文の過去問をもとに受験対策について解説する毎年恒例のイベントです。

英語の講座を受ける高校生たち



当日は124人（生徒・保護者）が参加。また、生徒と一緒に来学した保護者に向けては、本学概要・入試概要の説明や施設見学などのプログラムを用意し、本学のことを詳しく紹介しました。講座は、多くの参加者に恵まれ、無事終えることができました。ご参加くださった皆様、ありがとうございました。（入試・広報課）



学部長表彰を受けた畠山さん（前列中央）

地域のために防災活動

畠山さん（医検2年）を学部長表彰

地域住民のために防災活動に取り組む畠山星来さん（医学検査学科2年）が5日（月）、学部長表彰（社会活動賞）を受けました。

畠山さんは、熊本地震を教訓に姉の玲来さん（県立大学4年）と共に防災士の資格を取得し、地域の防災のためハザードマップや防災倉庫の確認、自力で避難が難しいお年寄りの把握などを行っています。また防災に関する啓発活動のため、ラジオや地元・益城町の広報紙にも登場するなどして活発に活動。4月6日付の熊本日日新聞でも大きく報道されました。

1300講義室Lであった表彰式で渡辺雄一学部長から表彰を受けた畠山さんは「これからも防災の活動をしていきたいと思っています」と話していました。（安部悠介）

施設見学、授業参加…言語聴覚士の仕事学ぶ 熊本西高生

熊本西高校の2年生9人が11月25日（金）、リハビリテーション学科言語聴覚学専攻の松原慶吾准教授が受け持つスモールグループ（松原SG）を訪問し、大学内を見学しました。

松原SGでは卒業研究の一環として、本学学生と熊本西高の生徒たちが協力し、高齢者施設等で全身を含む摂食嚥下機能の調査を行う予定でした。しかし、コロナ禍のために施設訪問ができなくなったため、8月下旬から9月にかけて計3回、同校を訪問し、摂食嚥下に関わる検査や訓練の体験、言語聴覚士（ST）を演じてもらう体験などを通し「STのお仕事」を西高生に紹介することにしました。そして、その体験で興味を持った生徒たちが本学を訪ねてくれました。

今回訪問した生徒たちは全員医療系の進路を希望していますが、この卒業研究に関わるまではSTについては全く知らなかった

そうです。この日は、松原准教授と学生たちの案内で聴力検査室をはじめとした学内施設を見学。「失語症学演習（評価）」の授業にも参加しました。参加した吉田圭佑さんは「授業中にコミュニケーションを取れる」ことに新鮮な驚きを見せていました。また、田中絵麻さんは「学内で学習できるスペースがあっていいな」と話していました。（安部悠介）



授業でディスカッションに参加する熊本西高校の生徒たち（手前の2人）

◆助産別科一般入試を実施 助産別科一般入試が3日（土）に実施されました。合格発表は、9日（金）です。これで年内の入試は終了となります。年明け最初の入試は1月7日（土）の認定看護師教育課程（認知症看護分野）、特定行為研修課程です。（入試・広報課）

◆グラウンドゴルフで校区住民と交流 西里校区グラウンドゴルフ大会が11月27日（日）、本学グラウンドで行われ、職員2人が校区の愛好家の皆さんとプレーを楽しみました。参加者は、ホールポストを狙って専用のボールを木製クラブで打ちながら、8ホールのコースを回っていました。ホールインワンが出るたびに拍手が起きていました。校区の大会は毎年5月と11月に開催されています。興味がある方はぜひご参加ください。（総務課）



本学グラウンドでプレーを楽しむ住民のみなさん



ベネッセの担当者から説明を受ける学生たち

◆オンライン留学説明会 アメリカへの海外短期留学の代わりとなるオンライン留学の説明会が7日（水）、1303講義室Mで実施されました。ベネッセi-キャリアの担当者が概要を説明。語学力アップという点では現地留学と効果は変わらず、むしろ今社会で必要なオンラインでの対応力も身につくという“利点”を紹介しました。前年度の参加学生も同席し、「英語力がなくても心配ない。個人指導が多くあり、会話が楽しかった」などと、体験談を語っていました。オンライン留学の申し込み締め切りは16日（金）です。参加を希望する学生は学術振興課（森川・永野）までお問い合わせください。（学術振興課）

私のお薦め記事

（このコーナーはDive! LSP 1年生が担当しました）

元担任 不適切言動42件に 熊本市中1自殺 市教委「現場勤務を当分停止」

（2022年11月18日付熊本日日新聞27面）

概要

自殺した中1男子生徒の小学校時代の元担任の男性教諭が、熊本市の第三者機関から複数児童への不適切指導を指摘された問題で、男性教諭による体罰や暴言、不適切な行為などは計42件となった。生徒の自殺を巡っては、市の詳細調査委員会が10月、男性教諭の不適切な指導で抑うつ状態となった可能性が高く、自殺の一因になったとする報告書を公表した。（医学検査学科・永田彩花）

コメント

児童、生徒の自殺が社会問題となっている。自殺の原因はさまざまである。学校の教諭による体罰、暴力がきっかけで自殺してしまった中1生徒の記事を見て心が痛くなった。自殺に至るまでになぜ教育委員会や学校は適切に対処しなかったのだろうか。子どもや保護者たちの話に真摯に耳を傾けることで、こういった事件が減ることにも繋がっていくのではないだろうか。

（リハビリテーション学科生活機能療法学専攻・新穂彩花）